

入域観光客統計概況

－平成16年9月分－

沖縄県観光リゾート局

9月の入域観光客数は457,800人。前年同月比は△7.1% (△35,200人)で、同月の過去2番目の記録となった。
1月～9月までの入域観光客数は3,923,300人。前年同期比は+3.0% (+113,500人)となった。

1. 空海路別入域状況

空路：450,100人 前年同月比 (△33,300人 △6.9%)
海路：7,700人 前年同月比 (△1,900人 △19.8%)

2. 主要航路別入域状況

東京：217,500人 前年同月比 (△13,100人 △5.7%) 構成比47.5%
阪神：87,300人 前年同月比 (△5,500人 △5.9%) 構成比19.1%
福岡：56,900人 前年同月比 (△2,400人 △4.0%) 構成比12.4%
名古屋：35,200人 前年同月比 (△4,400人 △11.1%) 構成比7.7%

3. 概況と見通し

9月の入域観光客数の概況としては、国内客については、上旬と下旬に2度接近・上陸した台風の影響により、空路においては対前年同月比△7.1% (△33,800人)、海路においては△20.5% (△800人)減少し、国内客全体としては前年実績を下回ることとなった。

外国客については、空路による入域客は増加したものの、海路においては定期クルーズ船の寄港回数が前年より少なかったことや、台風による欠航もあったことから前年実績を下回ることになった。

以上のことから国内客、外国客ともに減少し、入域観光客全体としては前年同月の実績を下回り、同月の過去2番目の記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、海外旅行との競合や台風の影響が懸念されるものの、修学旅行の入込予定数が前年実績を上回る予定であることや、全国的な沖縄人気が続いていることから増加が見込まれる。

外国客については、空路においては、高雄－那覇間のプログラムチャーター便が10月末で運航終了することや、海路においては定期クルーズ船の運行予定回数が昨年の寄港回数を下回ることから若干の減少が見込まれる。

以上のことから、懸念材料はあるものの、外国客の落ち込みを県外客がカバーし、入域観光客全体としては増加することが見込まれる。

担当：観光企画課 上原
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 9月中旬以降はピーク時に比べて旅行商品の価格が下がったこともあり、好調に推移したが、度重なる台風接近により多くのキャンセルが発生し、昨年実績を下回った。
- 10月～12月は修学旅行の予約が前年を上回っているが、個人旅行商品の動きが弱い。

大阪事務所 (阪神地区)

- 9月5日～7日の台風19号の影響や、日帰り・低価格の旅行商品の伸びにより旅行先が分散されたことなどの要因により入域減となった。
- 10月以降は、高校の修学旅行シーズンであることや、熟年層、職場旅行が好調に推移する見込みであることから、特に大きなマイナス要因が発生しない限り前年実績を維持するものと思われる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 景気の回復や海外旅行の増加により九州・福岡の旅行市場は全体的に好調に推移しているが、沖縄への入域については、海外旅行との競争の激化や2度の台風の影響により前年実績を下回ることとなった。
- 10月以降は、人気の紅葉ツアーなど国内他目的地や海外旅行との競合など、沖縄観光にとって厳しい状況が予想されることから、10月中旬にはJTB九州営業本部などと連携し、沖縄観光をPRする販促キャンペーンを実施した。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 台風の来襲や提供座席数の減少により入域減となった。
- 航空運賃の下限価格が値上がりしたことと、9月前半は旅行商品の料金設定が高いことから大幅減も予想されたが、沖縄人気の継続により減少幅は小さい。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 9月の減少要因は、台風により欠航が4便あったことと、上旬の旅行商品の価格が同月中旬以降と比較して約10～20%割高であったため伸び悩んだことなどが挙げられる。
- 10月～11月は修学旅行が好調である。また、JALの北海道～沖縄直行便が来年1月に就航20周年を迎えることから、今年12月から来年の3月まで道内12の旅行代理店による「冬の沖縄キャンペーン」が展開される予定である。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 高雄～那覇間のプログラムチャーター便の運航があったにもかかわらず、夏休みの終了や旅行などを控える「鬼月」の風習、台風の影響により空路が1便、定期クルーズ船についても1回運休となったことから昨年並みの実績にとどまった。

韓国事務所 (韓国地区)

- 盆休み期間が5日間あったことや、沖縄からのチャーター便運航で座席供給が良くなったことにより入域増となった。
- ハネムーンの予約が好調であることや、大手企業のインセンティブツアーが予定されていることから、10月以降の送客については前年実績を上回る見込みである。